

消化管アレルギーについて

● 消化管アレルギーとは

特定の食物を摂取することによって、アレルギー反応に由来する種々の消化器症状、全身症状が起こる病気です。



消化管アレルギーには、**即時型アレルギー**と**遅延型アレルギー**の仕組みで起こる複数の病態が含まれています。

● 消化管アレルギーの原因は何か

ほとんどが蛋白質を含む食品を摂取することにより起こります。牛乳、鶏卵、小麦、魚介類、大豆などが主要な原因食品です。



乳幼児では消化管の機能や構造が成人に比べて未熟なため、成人よりも高頻度に発症します。

● 消化管アレルギーの症状

即時型のアレルギーでは、食物を摂取してすぐに口のなかの違和感、口唇のはれ、じんま疹、喘息発作、鼻炎、喉頭浮腫などの全身症状や嘔気、嘔吐、腹痛、下痢などの消化器症状が現れます。



遅延型のアレルギーでは、貧血、体重減少などがみられます。

● 消化管アレルギーの検査と診断

まずは、摂取した食物と症状の因果関係を詳しく聴くことで原因食物を推測します。



即時型アレルギーでは、その食物に対するIgE抗体（アレルギー抗体）があることを血液検査や皮膚反応で確認します。**遅延型アレルギー**では、IgE抗体（アレルギー抗体）は陰性となります。



確実な診断は、その原因と考えられる食物を完全に除去して症状が改善され、そのあとにその食物を負荷することにより、症状が再現できるかを確認することです（食物除去・負荷試験）。



● 消化管アレルギーの治療方法

原因になる食物が判明したら、その食物を除去します。抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬は症状の軽減に有効な場合があります。

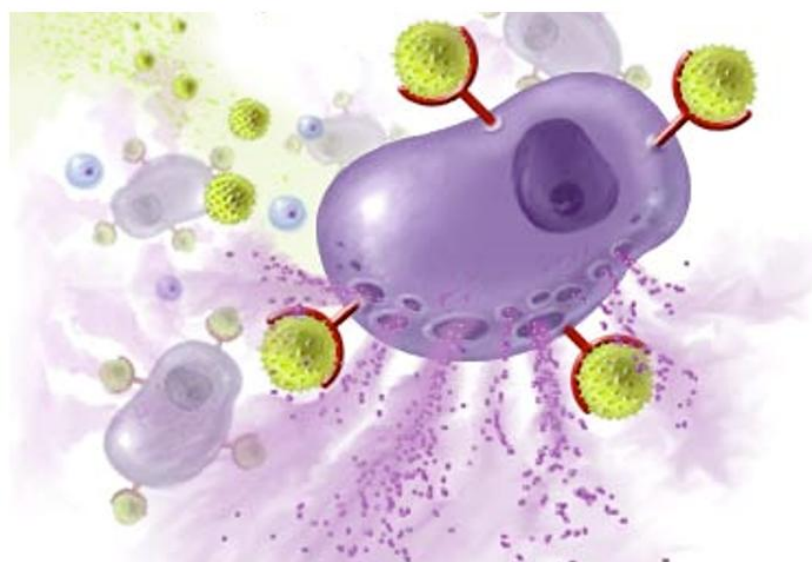


アナフィラキシーショックを起こした場合は、昇圧剤などを用いた迅速な対応が必要となります。



補 足

即時型のアレルギーでは、原因となる蛋白が消化管の粘膜内に侵入すると、マクロファージという細胞がこの蛋白を処理して、その情報をリンパ球に伝えます。リンパ球はさらにIgE抗体を作る細胞に命令して、その蛋白に対応したIgE抗体を作らせます。2度目以降にその蛋白が体のなかに入ると、IgE抗体が反応を起こし、早期に症状を引き起こします。



一方で、**遅延型のアレルギー**では、原因となる蛋白で活性化されたリンパ球が、組織傷害を引き起こします。

